

美をつくし

大阪市立美術館だより

平成29年3月1日発行



《新蔵人物語絵巻》上・下巻(部分) 伝後柏原院卿内侍筆
室町時代・16世紀 本館蔵

男装をして宮廷に出仕した「新蔵人」だったが、帝の寵愛をえて懐妊、男宮を出産するが、その後出家を決意する。画面縦が11センチ弱しかない白描の小絵(小型絵巻)で、愛らしい人物の周囲にセリフ(画中詞)が散らし書きされる。



木×仏像 飛鳥仏から円空へ——日本の木彫仏1000年

2017年4月8日(土)—6月4日(日)



1



2



3



4



5



6



7

1. 菩薩立像 飛鳥時代 東京国立博物館
Image : TNM Image Archives
2. 重要文化財 伝薬師如来立像 奈良時代
奈良・唐招提寺(展示期間:5月9日-6月4日)
3. 重要文化財 宝誌和尚立像 平安時代
京都・西住寺
4. 重要文化財 千手観音菩薩立像 平安時代
滋賀・阿弥陀寺
5. 重要文化財 釈迦如来立像 玄海作
鎌倉時代・文永十年(1273) 奈良国立博物館
6. 十一面観音菩薩立像 円空作 江戸時代
7. 重要文化財 十一面観音像 像内納入木札 平安時代
滋賀・誓光寺

仏像には様々な素材が用いられますが、日本では木を素材とした仏像、木彫仏が長い歴史を通じて造られ続けました。これは日本の仏教美術の際立った特徴ともいえます。本展では日本に仏教が伝来した飛鳥時代から江戸時代までの木彫仏約70体を展観することで、1000年の歴史の中で人々がどのように樹木に祈りをささげ、どのような木材を仏像に用いてきたのかを振り返ります。

樹木は人間にとって身近な存在であり、かつ、その崇高な姿は祈りの対象ともなりました。そもそも、木は仏教とも密接なかわりを持ちます。釈迦は無憂樹に手をかけた摩耶夫人の右脇から誕生し、菩提樹下で成道、沙羅双樹のもとで涅槃に入ったと伝わるように、その生涯の要所は樹木によって彩られます。また、経典類には仏像に白檀など特定の木材の使用を規定するような記述も見られます。こうした背景を持ちながら、日本の木彫仏は木に対してさらに強いこだわりをもって造像されたことを見て取ることができます。

今回展示する仏像には、木と仏像のかかわりについて深く考えさせられる作例を含みます。用材に特定の樹種の木材を意図的に選択したと考えられる例や、寺社の建築部材等を転用することで古材の持つ霊験性を仏像に転嫁させようとしたことがうかがえる作例、あるいは木材から仏像を造り始める儀式「御衣木加持」の痕跡と思われる木札を像内に納入する例などです。

さらに、仏像の修理時に得られた知見や樹種同定調査、年輪年代測定など最新の調査成果を踏まえた展示で、木と仏像についてより深い理解を目指します。

このようにたくさんのお見どころをご用意する本展には重要文化財20件以上を含む総数約70体の木彫仏が勢揃いします。展覧会に初めてお目見えする仏像や普段は拝観の難しいお像にもお出まします。そして約半数が大阪にゆかりの仏像です。木と仏像を鍵として日本文化の本質を探るこの企画、どうぞご期待ください。

(児島大輔)

会期中に展示替えがあります。詳細は当館ホームページをご覧ください。

◆講演会

4月22日(土) スペシャルトーク
木×仏像×修理

講師: 八坂寿史氏(公益財団法人美術院 西洞院工房長)

4月29日(土・祝)
日本×木×仏像

齋藤龍一(当館主任学芸員)

5月6日(土)
御衣木の文化史

児島大輔(当館学芸員)

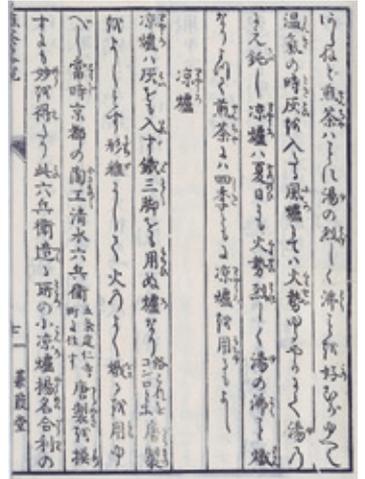
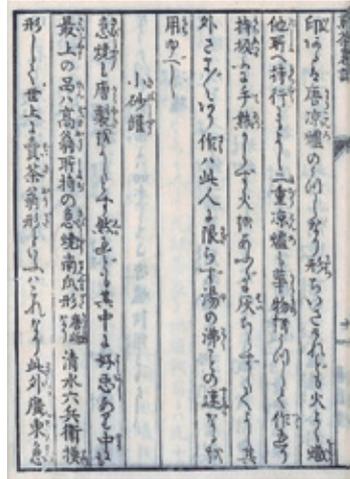
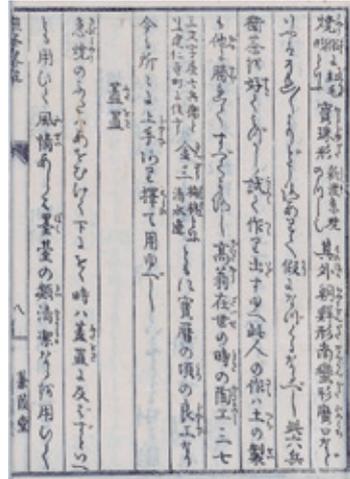
時間: 各日とも午後2時から午後3時30分

会場: 美術館1階 講演会室 定員: 150名

申し込み不要(先着順)・聴講無料。ただし、当日の本展観覧券が必要です。

澤田楽水居著『煎茶略説』について

谷村アイ氏寄贈による大阪市立美術館所蔵「谷村為海煎茶関連資料」の中に、澤田楽水居著『煎茶略説』という煎茶書がある。目録・本文で17丁ほどの短い書籍で、年記の奥付がないために北邨春豊の後跋に記された「寛政戊午の秋七月」がおおよその出版年を推測する根拠となっている。寛政戊午は寛政10年(1798)であり、煎茶書とし



て評価が高い上田秋成著『清風瑣言』寛政6年刊(1794)と街頭道者嵐翠著『自弁茶略』享和3年刊(1803)〔後世『煎茶早指南全』と改題〕の間に刊行されたものと思われ、大枝流芳著『青湾茶話』宝暦6年刊(1756)〔後世『煎茶仕用集』と改題〕、田能村竹田著『石山齋茶具図譜』・『竹田荘泡茶訣』・『竹田荘茶説』文政12年跋(1829)、深田精一著『木石居煎茶訣』嘉永2年序(1849)などの主要な煎茶書と比べると、注目度が高いとはいえないし、著者の詳細も知られていない。ただし、9行野入りの下段枠内に「兼葭堂」の文字があり、木村兼葭堂(1736~1802)が出版に関わっていた書籍であるので、清風社などの煎茶結社周辺の人物と考えられる。

本書の目録(目次)には、「製茶、蔵茶、擇水、潔瓶、候湯、煎茶、淹茶、花香茶、風爐、涼爐、小砂罐、蓋置、爐板、藤床、拭盞、茶鍾、茶盤、香盒、薫物、線香、茶托子、火筋、扱提、吹筒、羽帚、絹吧、料藤扇、茶注、茶漏、茶匙、茶焙、茶筴、紙囊、建水、漉水、滓盃、櫻札、竹杓、烏府炭、炭搗、堤籃」とあり、「花香茶」の本文の後には「右八件は曩に巽齋子上梓する所煎茶訣の和解なり。なを委しくはかの書を見て考ふべし。」とあって、「製茶」から「花香茶」までは、木村兼葭堂が翻刻出版した清国の葉雋之が撰著した『煎茶訣』宝暦14年甲申跋(1764)の和訳であると記している。茶を入れるまでの内容が自身の見解ではないことなどにより、煎茶書としての評価が高くならなかったのかもしれない。

しかしながら、煎茶訣の和訳は簡潔で分かりやすく、漢字の部分にはほぼ総ルビで表記されているので、様々な茶事に関する言い方や、後半に記述された器物の名称を18世紀末から19世紀初頭の人々がどのように呼んでいたのかがよく分かる。また、日本製の和物陶磁器の煎茶器に関する同時代な記述が散見されることは重要で、特に「涼爐」や「小砂罐」の記述の内容には多くの知見がある。今その部分を抜き出してみよう。

涼炉
涼炉は灰をも入れず鉄三脚をも用ぬ炉なり。俗これをコンロといふ。唐製をよしとす。形雅にして火つよく熾るを用ゆべし。当時京都の陶工清水六兵衛、五条建仁寺町に住す、唐製を模するも妙を得たり。此六兵衛造る所の小涼炉揚名合利の印あるは、唐涼炉のうつしなり。形ちいさけれども火よく熾、他所へ持行もよし。二重涼炉も華物をうつして作り。持扱うに手熱からず。火をあふぐに灰ちらすしてよし。其外さまざまあり。作は此人に限らず湯の沸ことの速なるを用ゆべし。

小砂罐
急焼も唐製をよしとす。然れども其中に好悪あり。中にも最上の品は高翁所持の急焼南瓜形、唐物なり、清水六兵衛模形して、世上に売茶翁形というはこれなり。此外広東急焼、俗に紅毛形といふ、宝珠形、新渡急焼のうつし也、其外朝鮮形、南蛮形、広口などいふ名それぞれよりどころありて、仮になづくるなるべし。此六兵衛茶を好てみづから試て作り出すゆへ、此人の作は土の製も他に勝れてすべてによろし。高翁在世の時の陶工三七、三文字屋七兵衛といふ、建仁寺町に住す、金三、梅林といふ、清水辺、ともに宝暦の頃の良工なり。今も所、に上手あり。扱て用ゆべし。

初代清水六兵衛(1737~99)が、唐物写の揚名合利印銘のある小型の涼炉や売茶翁形という形状の急火焼の製作に秀でいることや、売茶翁高遊外が存命の頃に建仁寺町にいた三文字屋七兵衛や、清水坂あたりにいた梅林金三といった、他の文献には記載されていない急火焼作りの名工がいたことも確認できる。後半の煎茶器の記述に関しては、道具の使い方が中心であり、全体としては平易でマニュアル的な側面が強い煎茶書であるといえよう。

(守屋雅史)

木×美術 —絵画と工芸—

2017年4月8日(土)ー5月14日(日)



桜 福田平八郎
昭和19年(1944) 本館蔵(住友コレクション)

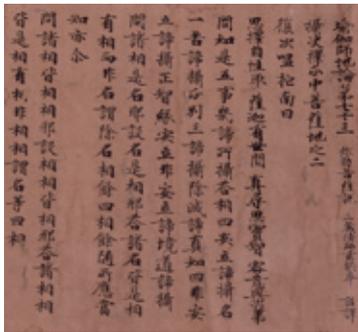
木は、モチーフとして、素材として、絵画や工芸に用いられてきました。そこからは、身近な樹木に対する親しみや崇高な存在に対する畏敬など、様々な思いを感じることができます。本展示では、住友コレクションの日本画を中心に木にまつわる作品をご紹介します。特別展「木×仏像」とともにお楽しみください。

木は、モチーフとして、素材として、絵画や工芸に用いられてきました。そこからは、身近な樹木に対する親しみや崇高な存在に対する畏敬など、様々な

奈良・平安の写経

2017年4月8日(土)ー5月14日(日)

仏教が伝わって間もない奈良時代の写経は、中国や朝鮮半島の影響を受け、南北朝から唐のスタイルに似た謹厳方正な書風が特徴です。平安時代になると次第に和様化が進み、柔軟優美な字姿を示すようになってゆきます。近畿の寺院からのご寄託品を中心にご覧頂きます。



瑜伽師地論 卷第七十三(部分)
奈良時代・8世紀
奈良・薬師寺

絵巻物撰

2017年4月8日(土)ー5月14日(日)



二尊院縁起絵巻(下巻・部分) 狩野派
桃山時代・16世紀
京都・二尊院

右から左へと画面(絵と詞)を巻き取りながら、物語の時間的、空間的な展開を鑑賞する「絵巻」は、現代の映画やアニメの源流ともいわれる特性をもつ絵画作品です。寺社縁起、高僧伝、説話、お伽草子など、バラエティに富んだ中～近世絵巻の魅力をご紹介します。

丸山石根 西国三十三所観音御画像Ⅰ

2017年4月8日(土)ー5月14日(日)

丸山石根 西国三十三所観音御画像Ⅱ

7月7日(金)ー7月19日(水)

8月1日(火)ー8月20日(日)

丸山石根(1919~99)は大阪に生まれ、京都市立絵画専門学校卒業後、中村岳陵に師事し、日展などで活躍した日本画家です。丸山が8年の歳月をかけて完成させた西国三十三所霊場の観音画像を2期にわけてご紹介します。慈愛にみちたまほとけの姿を心やすらかに鑑賞ください。



十一面千手千眼観世音菩薩 丸山石根
(第五番 紫雲山 葛井寺 本尊)
昭和61年(1986) 本館蔵

仏画×風景

2017年4月28日(金)ー6月4日(日)

涅槃に入る釈迦を囲む沙羅双樹、蓮が咲き誇る浄土の宝池、無数の剣が突き出た地獄の山など、仏教絵画の中には実に多種多様な〈風景〉の描写を見出せます。今回は仏教絵画に描かれた 景観や、その中の植物、生き物に焦点を当てて作品をご紹介します。現世や浄土、地獄世界の〈風景〉をお楽しみ下さい。



重要文化財
阿弥陀二十五菩薩来迎図(部分)
鎌倉時代・13~14世紀 兵庫・小童寺

円山・四条派の絵師たち

2017年4月28日(金)ー6月4日(日)

応挙を祖とする円山派とその弟子の呉春にはじまる四条派。いくぶんニュアンスに違いは見られるものの、どちらも自然写生を基礎とした平明な画風により一世を風靡しました。江戸中期以降、上方を中心に活躍した円山・四条派の絵師たちの作品を館蔵・寄託の作品よりご紹介します。



芭蕉童子図屏風(部分) 円山応挙
明和6年(1769) 個人蔵

おおさか洋画物語

2017年7月7日(金)ー7月19日(水)
8月1日(火)ー8月20日(日)



海景 松原三五郎
大正8年(1919) 本館蔵

大阪での本格的な洋画教育は、松原三五郎(1864-1946)の主宰した「天彩画塾」に始まります。松原が先駆者の一人

となって牽引した大阪洋画壇は、多彩な個性を生み出し、次世代へと継がれてゆきました。大阪近代を彩る洋画家たちの作品を中心に、その軌跡をふりかえります。

清涼をもとめて 夏の工芸

2017年7月7日(金)ー7月19日(水)
8月1日(火)ー8月20日(日)

龍泉窯の淡い青緑色の釉薬は世界中で珍重されました。ここでは龍泉窯をはじめとする高雅な中国青磁や透明感あふれる高麗青磁、水辺や魚をモチーフとした漆器などをあわせて展示いたします。夏の一日、目に涼やかな工芸品の数々をお楽しみください。



青磁貼花 牡丹唐草文瓶 龍泉窯
元時代・14世紀 兵庫・太山寺

中国の彫刻

2017年8月1日(火)ー10月1日(日)

本館蔵山口コレクション石造中国仏教・道教彫刻より、中国南北朝時代北魏の優品を中心とする数々をご覧ください。あわせて展示します遼時代の如来坐像や清時代の玄天上帝坐像など、唐時代以降の仏像・道教像もお見逃しなく。



石造 如来坐像 遼時代・11世紀
本館蔵(山口コレクション)

源氏絵

2017年9月2日(土)ー10月1日(日)

王朝文学の傑作『源氏物語』の中からさまざまな情景を選んで絵画化した「源氏絵」は、一千年近くにわたり連綿と描き継がれてきたやまと絵の一大ジャンルです。近世土佐派をめぐる特別陳列の開催にちなんで、香り高い源氏絵の世界をお届けします。

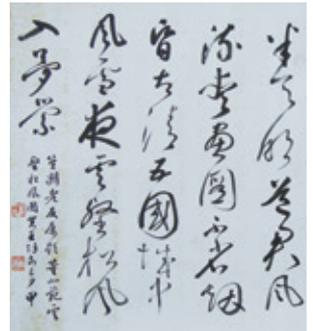


源氏物語図屏風(部分)
桃山時代・17世紀 本館蔵

長尾雨山の見た中国書画

2017年9月2日(土)ー10月1日(日)

漢学に造詣が深く、詩書画を善くした長尾雨山は、阿部房次郎の中国書画コレクション(現本館蔵)の形成にあたり、顧問的な役割を果たしました。中国在住時には呉昌碩らの文人と交流して、作品を応酬しました。雨山の旧蔵品や、過眼した作品、題跋、箱書などを展示します。



行書董源雲壑松風図跋 長尾雨山
昭和8年(1933)
本館蔵(阿部コレクション)

千花百果 —四季をめぐる中国書画

2017年9月2日(土)ー10月1日(日)

寒い冬を越えれば必ず暖かい春がやってきて、花が咲き実を結ぶ季節を迎えます。四季の花々や果実は古くから画題とされ、装飾的な美しさのみならず、吉祥の含意、ときに人格を象徴的に表すものでした。身近で親しみやすい花卉を中心とした作品をお楽しみいただけます。



四時果実図(四幅) 趙之謙
清・道光21年(1841) 本館蔵(阿部コレクション)

多彩なる隸書 —漢の石刻

2017年9月2日(土)ー10月1日(日)

約四世紀にまたがる漢代(前206~220)は、隸書が最も栄えた時代です。独特の波磔(はたく)といわれる右払いが特徴ですが、完成を見るのは後漢末、時とともに書体は変化しました。また書かれた地域や目的などの状況によって、その姿は多種多様な美しさを見せます。



楊淮表記
後漢・熹平2年(173)
本館蔵(師古齋コレクション)

特別陳列

—土佐光起生誕400年—

近世やまと絵の開花(仮称)

2017年9月2日(土)～10月1日(日)

土佐光起(1617～91)は、伝統的なやまと絵に狩野派や中国絵画の表現を巧みに融和させ、江戸時代の新たなやまと絵様式を確立した画人です。物語絵、歌仙絵、名所絵のほか、肖像画、花鳥画など幅広い主題を手がけました。本展では光起、その子光成らを中心に、雅やかな「和」の情趣にみちた近世やまと絵の世界をご紹介します。



重要文化財
大寺縁起(下巻・部分) 土佐光起
江戸時代・元禄3年(1690) 大阪・開口神社

光起、その子光成らを中心に、雅やかな「和」の情趣にみちた近世やまと絵の世界をご紹介します。

所蔵作品の貸出

他館への貸出を予定している当館所蔵作品です。コレクション展ではあまり展示機会がない作品もあります。貸出先館の近くへお出かけの際にはお見逃しなく! 展示期間など詳細は各施設にお問い合わせください。

① 蔣廷錫《藤花山雀図》ほか 計4件

観峰館(東近江市)
2017年2月1日(水)～3月20日(月・祝)
「花鳥画を愛でる」



② 児玉希望《枯野》

式年遷宮記念神宮美術館(伊勢市)
2017年2月24日(金)～3月21日(火)
「野—歌会始御題によせて—」



③ 勝部如春齋《小袖屏風虫干図巻》

西宮市大谷記念美術館(西宮市)
2017年4月1日(土)～5月7日(日)
「西宮の狩野派 勝部如春齋」



④ 石崎光瑠《聖苑》

富山県水墨美術館(富山市)
2017年4月7日(金)～5月14日(日)
「花鳥画の煌めき—没後70年石崎光瑠展」



⑤ 《第二回 四十年社展ポスター》ほか 計3件

岩手県立美術館(盛岡市) 萬鉄五郎記念美術館(花巻市)
2017年4月15日(土)～6月18日(日)
「没後90年 萬鉄五郎展」
神奈川県立近代美術館 葉山館などへも巡回



⑥ 北野恒富《星》ほか 計7件

あべのハルカス美術館(大阪市)
2017年6月6日(火)～7月17日(月・祝)
「没後70年北野恒富展 なにわの美人図鑑」
島根県立石見美術館などへも巡回



⑦ 椿貞雄《武者小路実篤像》ほか 計2件

千葉市美術館(千葉市)
2017年6月7日(水)～7月30日(日)
「歿後60年椿貞雄 師・劉生、そして家族とともに」



特別展

ディズニー・アート展《いのちを吹き込む魔法》

2017年10月14日(土)～2018年1月21日(日)

ミッキーマウスの誕生作となった『蒸気船ウィリー』にはじまり、『白雪姫』『ダンボ』など初期の作品から『アナと雪の女王』『ズートピア』、最新作の『モアナと伝説の海』(2017年3月10日日本公開)に至るまで、約1世紀にわたるディズニー・アニメーションの歴史を紐解く、原画やスケッチ、マケット、コンセプトアートなど約450点が日本にやってきます。ディズニー・アニメーションでは、クリエイターたちが想像力を飛ばたかせてスケッチを重ね、また、その時代の最新技術を駆使することでいのちを吹き込む技=〈魔法〉を生み出してきました。展覧会では、子どもから大人まで多くの人を虜にしてきたディズニー・アニメーションの〈魔法〉の秘密に迫ります。



《ミッキーのハワイ旅行》より1937年
©Disney Enterprises, Inc.

外壁塗装工事の完了について

昨年度、今年度の冬季、美術館本館展示室を休館し実施してきました外壁塗装工事が完了しました。開館81年目の春、透明感と輝きを取り戻した当館の、クラシカル&ゴージャスなたたずまいに改めてご注目ください。

大阪市立美術館 天王寺公園内

Osaka City Museum of Fine Arts

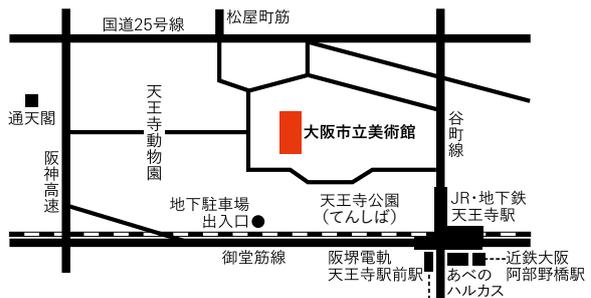
〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82

tel. 06-6771-4874 fax. 06-6771-4856

http://www.osaka-art-museum.jp

開館時間=9:30～17:00(入館は16:30まで)

休館日=月曜日(ただし月曜日が祝日の場合は翌平日)



交通案内:地下鉄御堂筋線・谷町線、JR「天王寺」、近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」、阪堺電軌上町線「天王寺駅前」下車、または市バス「あべの橋」下車、北西へ約400m